

SUPER MODE解説

SUPER MODE起動方法、設定方法について

最新のファームウェアアップデート後、C ボタンを押したまま電源を入れると SUPER MODE の基本画面に入れます。

※SUPER MODE はプリセットモードとは大きく異なり、GEEK MODE と同様にご使用する前に

自身で各スイッチに割り当てたい信号を設定する必要があります。

ここでは SUPER MODE を設定するテキストファイルに記載されている数々の暗号を解説致します。

その暗号を理解した上で割り当てたい PC ナンバー、CC ナンバー、NOTE ナンバーを設定して下さい。

【SUPER MODE 設定の流れ】

各スイッチの設定は各スイッチに自身が使用したい supersetup フォルダ内のテキストファイルを編集する必要があります。

アップデート後「supersetup」フォルダが追加されますのでこちらを開いて page1 から page18 までのテキストファイルから

お好みのテキストファイルのページを開いて操作したい PC number、CC number、Note number を入力することよりカスタム設定が完了します。

以上が SUPER MODE の基本的な設定の流れです。

ここからは編集するテキストファイルの暗号について解説します。

supersetup フォルダ内の page.txt ファイル（1～18 までありますがどれを開いても良いです。）を開いて

記載されている暗号を確認しながら下記の解説をお読み下さい。

※テキストファイルを編集する前にバックアップをとってください。編集に失敗した場合はバックアップデータを

上書きして頂ければやり直すことができます。

- (1) ボタンの 4 つのトリガータイミングがサポートされており、それぞれ短押し、短押し解除、長押し、長押し解除に対応します。
対応するキーワードはそれぞれ short_dwX、short_upX、 longX、long_upX であり、X は 1～9 の数字で、keytimes の X 回目の押下に対応します。

たとえば、short_dw1 = [1][PC][5][-]は、最初の短押し時に PC 値 5、MIDI チャンネル 1 で 1 つの PC コマンドを送信することを意味します。

ヒント：短押しと長押しを完全に独立したイベントとして扱う必要がある場合は、短押し解除と長押しの 2 つのタイミングを定義する必要があります。

つまり、short_upX と longX です。 これにより、長押しアクティブ化前に短押しアクションが出力されなくなります。

- (2) 各トリガータイミングには、MIDI PC コマンド、CC コマンド、NT (note) コマンド、 およびマウスキーボード HID コマンドを含む混合制御コマンドを定義できます。

単一のコマンドまたは複数のコマンドの組み合わせであり、数に制限はありません。 各コマンドの形式は、4 つの角っこ□□□□によ

って構成され、

次に 4 つの異なるタイプの単一のコマンドの例があります：

[1][PC][8][-]は PC コマンドを 1 つ意味し、PC8、MIDI チャンネル 1 が送信されます。

[2][CC][10][127]は CC コマンドを 1 つ意味し、CC10、値 127、MIDI チャンネル 2 が送信されます。

[1][NT][60][127]はノートコマンドを 1 つ意味し、ノート 60、ベロシティ 127、MIDI チャンネル 1 が送信されます。

[send][HID][-][A]は、HID キーボードマウスシミュレーションコマンドを意味し、send は 1 回の高速な押下とリリースを模倣し、キー値は A です。

4 つの角っこ[]を 1 組とし、連続する複数の組を下に配置することができます。

たとえば、short_dw1 = [1][PC][8][-] [2][CC][10][127] [3][CC][20][127] [send][HID][-][A] ...です。

フォーマットに注意してください。間には空白が入っていても、改行はできません。

- (3) keytimes キーワードを使用して、ボタンの複数の押下をループすることができ、各押下ごとに異なる制御コマンドを設定できます。
keytimes = [1]は、このボタンが単一の機能のみを定義していることを意味します。
keytimes - [5]は、このボタンが 5 回のループ機能を定義していることを意味し、5 つの異なるコマンドセットを設定できます。最大 9 回です。

- (4) すべての設定内容は、supersetup ディレクトリにあり、それに対応する pageX.txt ファイルにあります。
各ページは制御機能のセットであり、最右側のボタンを長押しすることで ページを切り替えることができます。最大 99 ページまでです。
pageX.txt での X は 0 から始まり、最大 99 であり、間は連続している必要があります。

- (5) 各 pageX.txt ファイルでは、3 つの大きな部分が定義されています。
まず、[globalsetup]があり、ここにはデバイスと各ページのいくつかの全体の設定パラメータが定義されています。
この部分の内容は、再起動後に有効になるため、page0.txt に配置する必要があります。
・ledbright = [30]は、ボタンの LED リングの明るさを 1 から 100 までの範囲で定義します。20 から 50 の範囲が推奨されます。
・screenbright = [80]は、画面の明るさを 1 から 100 までの範囲で定義します。30 から 100 の範囲が推奨されます。
・dark_fonts = [off]は、ダーク背景画像には off、ライト背景画像には on を推奨します。
・wallpaper = [wp1]は、背景画像の設定で、wp1 に固定することをお勧めします。240x240 24bit BMP 画像を wp1 としてリネームして背景を置き換えることができます。
・long_press_timing = [1]は、長押しのタイミングを判定する時間を、1 / 1.5 / 2 / 2.5 のいずれかで定義できます。単位は秒です。
・WIRELESS_2.4G = [on]は、内部 2.4G モジュールのオン/オフスイッチです。10-オンオフバージョンの青と金にのみ適用されます。以下のオプションも同様です。
・WIRELESS_ID = [8]は、ワイヤレスモジュールの ID 番号であり、ペアリングされた MIDI MATE と同じに設定する必要があります。
デフォルトはすべて 8 です。複数人が同時にワイヤレス制御を使用する場合は、異なる ID を設定してください。
・WIRELESS_dB = [6]は、ワイヤレスモジュールの電力設定を定義します。
0：12dBm、1：10dBm、2：9dBm、3：8dBm、4：6dBm、5：3dBm、6：0dBm、7：-2dBm、
8：-5dBm、9：-10dBm、10：-15dBm、11：-20dBm、12：-25dBm、13：-30dBm、14：-25dBm。

(6) 次に、[PAGE]で各ページに関連するパラメータが定義されます。

page_name = [HXLP] ページの名前を定義します。4 文字の大文字を推奨します。

exp1_CH = [1] 表情ペダル 1 の MIDI チャンネル

exp1_CC = [1] 表情ペダル 1 の MIDI CC 番号

exp2_CH = [1] 表情ペダル 2 の MIDI チャンネル

exp2_CC = [2] 表情ペダル 2 の MIDI CC 番号

encoder_CC = [90] エンコーダーの MIDI CC 番号

encoder_NAME = [MYCC] エンコーダーの機能名

midithrough = [on] MIDI スルーのスイッチ on/off

display_number_ABC = [abc3] PC の表示方法を選択します。1 23 / abc3 / abc4 / abc5 / abc8 は、
数字またはアルファベットのグループ化を示します。 間隔 3、4、5、8 のいずれかのグループ化方法があります。

group_number = [3] これもグループ化方法を設定します。 上記の選択が 123 数字方式の場合、ここではグループ間の間隔を補完する設定を行います。

display_pc_offset = [1] 0 または 1 を入力し、表示される PC 値が 0 から始まるか、
1 から始まるかを指定します。異なるホスト機器の表示と整合するために使用されます。

display_bank_offset = [1] 0 または 1 を入力し、グループ化された場合、開始グループが 0 から始まるか、1 から始まるかを指定します。

(7) キーの具体的な設定は、[key0] [key1] [key2] [key3] [key4] [key5] ...のようになります。

ピンの数によって設定する必要があるキーの数異なります。 以下は[key0]の例です：

keytimes = [3] キーを 3 回のループ操作に設定します。

ledmode = [normal] キーの LED ライトモードを normal に設定します。 これは、何回目の押下かに応じて ledcolorX の色が表示されることを意味します。

ledmode は、normal / select / tap のいずれかにすることができます。select は、 選択されているすべてのキーが同時に 1 つだけ点灯することを意味します。

tap は、トリガーの点滅効果のために専用用意されています。select 設定には、 1 つのキーを複数回ループ操作する場合、ledmode が select の場合、 ループ内で他のキーを押して戻っても、キーのループ状態が初期状態に戻ります （最初の押下時の機能定義）。一方、ledmode が normal の場合、 以前のループが続行されます。

ledcolor1 = [0x666666][0x666666][0xff0000] 1 回目の押下の色を定義します（灰、灰、赤）。 3 つの角かっこは、リングの 3 つのセグメントの色を示し、0x プレフィックスは 16 進数を表します。

short_dw1 = [1][CC][69][0] 1 回目の短押しで、CC コマンドを送信します。チャンネル 1、CC69、値 0 です。

ledcolor2 = [0xff0000][0x666666][0x666666] 2 回目の押下の色を定義します（赤、灰、灰）。

short_dw2 = [1][CC][69][1] 2 回目の短押しで、CC コマンドを送信します。チャンネル 1、CC69、値 1 です。

ledcolor3 = [0x666666][0xff0000][0x666666] 3 回目の押下の色を定義します（灰、赤、灰）。

short_dw3 = [1][CC][69][2] 3 回目の短押しで、CC コマンドを送信します。チャンネル 1、CC69、値 2 です。

(8) その他の事前定義されたキーワードとその使用方法の説明 大文字小文字を厳密に区別してください。

・ [1][PC][inc1][-] は、PC の現在の値に 1 を追加します。inc1 / inc2 / inc3 / inc4 / inc5 に対応しています。それぞれ、+1、+2、+3、+4、+5 です。

・ [1][PC][dec1][-] は、PC の現在の値から 1 を減算します。dec1 / dec2 / dec3 / dec4 / dec5 に対応しています。それぞれ、-1、-2、-3、-4、-5 です。

・ [2][PC][random][-] random は、ランダムな PC 値を送信します。MIDI チャンネル 2 です。

・ [1][PC][auto][bank_inc] は、PC が自動的にグループ化され、グループ番号が+1 されます。

・ [1][PC][auto][bank_dec] は、PC が自動的にグループ化され、グループ番号が-1 されます。

・ [1][PC][auto][0] は、PC が自動的にグループ化され、グループ内の最初の音色 PC 番号が送信されます。

・ [1][PC][auto][1] は、PC が自動的にグループ化され、グループ内の 2 番目の音色 PC 番号が送信されます。

・ [1][PC][auto][2] は、PC が自動的にグループ化され、グループ内の 3 番目の音色 PC 番号が送信されます。

・ [1][PC][auto][3] は、PC が自動的にグループ化され、グループ内の 4 番目の音色 PC 番号が送信されます。

・ [1][PC][auto][4] は、PC が自動的にグループ化され、グループ内の 5 番目の音色 PC 番号が送信されます。

・ [1][PC][auto][5] は、PC が自動的にグループ化され、グループ内の 6 番目の音色 PC 番号が送信されます。

・ [1][PC][auto][6] は、PC が自動的にグループ化され、グループ内の 7 番目の音色 PC 番号が送信されます。

・ [1][PC][auto][7] は、PC が自動的にグループ化され、グループ内の 8 番目の音色 PC 番号が送信されます。

・ [send][HID][-][A] キーボードコマンド、A キー、速攻押しして離す

・ [press][HID][-][A] キーボードコマンド、A キー、押したままにしておく

・ [release][HID][-][A] キーボードコマンド、A キー、離す ・ [release][HID][-][all] キーボードコマンド、すべてのキーを離す

・ [delay][HID][-][50] 純粋な遅延コマンド、50 ミリ秒単位の遅延です。

[send][HID][Ctrl][A] キーボードコマンド、複合キー、 3 番目の括弧は Ctrl / Shift / Alt / Option / Windows を選択できます。

マウスおよびキーボードのシミュレーションコマンドの 4 番目の括弧でサポートされるキー：

A-Z、0-9、F1-F12、Mouse_L（マウス左クリック）、Mouse_R（マウス右クリック） Space、Esc、Caps、Right、Left、Up、Down、End、Del、PageUp、PageDown、Enter、Pause、Tab、BackSpace、Home、Ins、PrintS（画面印刷）

(9) 機能のヒント

NT note コマンドを構成した後、ノート音を送信した後、ノートが継続的に再生される場合があります。

音を停止するには、音量が 0 のノートコマンドを追加する必要があります。

多くの場合、汎用の [1][CC][123][0] のミュート CC コマンドを使用して音を停止できますが、これはホストがサポートしているかどうかによります。

[press][HID][-][A] press を使用してキーを押した場合、対応するリリースコマンドを構成することを忘れないでください。

そうしないと、コンピュータがキーの押下に継続的に反応し、コンピュータがクラッシュするなどの問題が発生する可能性があります。

[delay][HID][-][50] 遅延コマンドを送信した後、デバイスは遅延期間中に何のアクションにも応答しなくなります。遅延時間が長すぎないようにしてください。

デバイスは、現在の PC 値とページの記憶を 30 秒ごとに更新します。また、デバイスの記憶が更新される瞬間には、短い応答遅延があります。

現在のページの切り替えは外部 MIDI IN で制御できます。対応するコマンドは CC 20 XX で、XX は目標ページのページ番号です。XX はデバイスの現在のページ範囲内の値である必要があります。